

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について

秋田県教育委員会

概 観

○平成19年度以降、連続して大変良好な状況にあるという結果を得ることができた。

- ・各教科の平均正答率が、全国平均をほぼ4ポイント以上上回っている。
- ・児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の結果において、肯定的な回答が全国の平均を上回る項目が多い。

要因は、家庭・地域・学校・大学等のオール秋田でつくってきた、すばらしい教育環境の下で成し遂げた成果であると捉えている。したがって、教科だけでなく児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査においても、児童生徒の豊かな人間性が育まれている状況を示す結果となった。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”にみる秋田の優れた教育環境

- ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣
- ・各学校における児童生徒一人一人へのきめ細かな指導と授業改善への取組
- ・家庭と地域の連携による質の高い教育力

○県教育委員会では、今回を含めた9回の調査結果により、これまでの施策・事業等の方向性や有効性について一定の評価をしている。特に、少人数学習推進事業、県独自の学習状況調査、各学校が実施している共同研究体制による授業研究等は、大きな効果があったと考えている。

○データを個別にみると課題もある。今後、検証改善委員会を立ち上げ、「昨年度までの課題の改善状況」「今年度の調査から明らかになった課題」等について詳細な分析を進め、各学校における継続的な検証改善サイクルの確立に努めていく。

○今後も、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただき、オール秋田で「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指し、「教育立県あきた」の実現に努めていく。

調査結果の活用

○本年度の調査は、小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒を対象として実施された。県教育委員会では、インターネット上で自己採点結果の集計・分析が可能なシステムを構築し、各学校に提供している。既に、各学校においては自己採点を進め、自校の課題を明らかにして、その改善に向けて取り組んでいるところである。また、本調査を受けた児童生徒に対しては、個々の課題となっている部分をできるだけ早く解決した上で、当該学年の学習内容を定着させることが大切であり、9月以降、その改善の方策を一層具体化して取り組むことになる。

○県教育委員会では、今回の結果とこれまでの結果を併せて成果と課題を明確にし、調査の活用による指導の改善・充実のための取組を進めていくことになる。特に、国と県の学力調査及び高校入試を一体として捉えた本県独自の検証改善サイクルを確立し、推進していく。具体的には、全国学力・学習状況調査での課題を明確にし、県学習状況調査で課題の改善状況を把握する。さらに、高校入試においても、「基礎的・基本的な知識・技能の活用」に関する力が把握できるような問題を作成し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

教科に関する調査の結果

◆ 概 要

- 本県の各教科の平均正答率は、全国平均をほぼ4ポイント以上上回っており、良好な状況である。
- 小学校では全ての問題において、中学校ではほとんどの問題において、本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 正答数分布は、全国に比べて、正答数の多い層が厚くなっている。
- 無解答率は、小・中学校ともに、国語、算数・数学の全ての問題で全国平均を下回っている。
- 全ての児童生徒に定着が求められ、正答率が十分でない問題については、早急に指導の改善を図り、一層の向上を目指す必要がある。

小学校6年生平均正答率

()は全国との差

教 科	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	77 (+4)	76.0 (+6.0)	77.4 (+4.5)	71.7 (+9.0)	86.9 (+5.3)	89.3 (+6.0)	75.3 (+5.4)	74.4 (+9.0)	86.1 (+4.4)
国語B(活用)	64 (+6)	76.4 (+11.0)	67.3 (+11.8)	59.1 (+9.7)	63.0 (+7.4)	84.8 (+7.0)	60.4 (+9.9)	62.9 (+12.4)	69.0 (+7.0)
算数A(知識)	82 (+4)	81.2 (+6.0)	85.1 (+7.0)	82.8 (+5.6)	79.5 (+6.2)	83.2 (+9.0)	86.2 (+7.5)	80.7 (+8.5)	88.4 (+6.3)
算数B(活用)	52 (+5)	51.5 (+6.5)	66.2 (+8.0)	67.1 (+8.7)	64.0 (+5.1)	59.0 (+9.7)	63.7 (+8.9)	58.9 (+7.3)	68.6 (+5.0)
理 科		66.7 (+5.9)			68.4 (+7.5)				

中学校3年生平均正答率

()は全国との差

教 科	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	79 (+3)	80.8 (+5.0)	84.4 (+5.0)	81.9 (+5.5)	79.7 (+4.6)	79.8 (+4.7)	82.3 (+5.3)	78.6 (+5.0)	85.4 (+3.8)
国語B(活用)	72 (+5)	70.7 (+4.9)	55.8 (+4.8)	74.6 (+7.2)	70.3 (+7.0)	71.7 (+6.4)	81.8 (+7.3)	66.8 (+6.0)	77.0 (+5.0)
数学A(知識)	67 (+5)	68.4 (+4.0)	73.0 (+5.6)	68.9 (+5.2)	67.4 (+5.3)	70.8 (+6.2)	68.8 (+6.1)	70.1 (+7.0)	77.5 (+5.6)
数学B(活用)	48 (+4)	46.9 (+5.3)	65.5 (+5.7)	47.5 (+6.0)	56.7 (+7.4)	50.0 (+6.7)	63.4 (+6.5)	54.7 (+5.5)	65.3 (+4.7)
理 科		59.6 (+6.6)			56.1 (+5.1)				

- * 平成24年度、平成22年度については、文部科学省から抽出調査における誤差も含めた「平均正答率の95%信頼区間」が公表されていますが、この表の数値はその区間の中央値を示しています。
- * 平均正答率は、平成27年度までは小数第1位までの小数、平成28年度は整数で示しています。

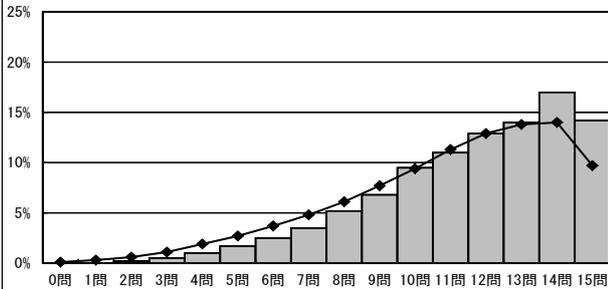
◆ 正答数分布グラフ(正答した設問の数と児童生徒の人数の割合を示したグラフ)

秋田県は全国よりも正答数の多い児童生徒の人数の割合が多い。

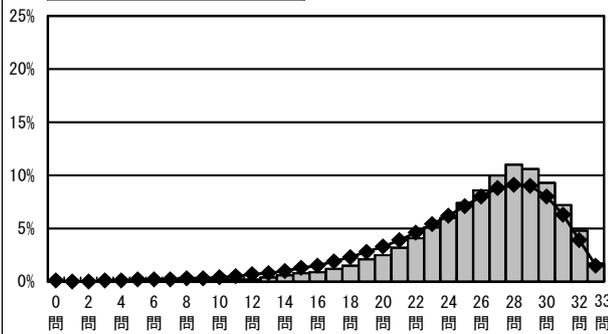
【国語】

※横軸：正答数、縦軸：児童生徒の人数の割合

〈小学校国語A〉

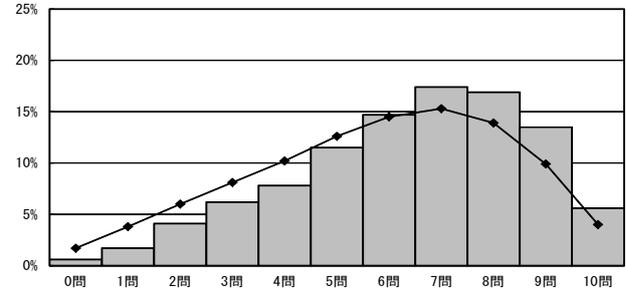


〈中学校国語A〉

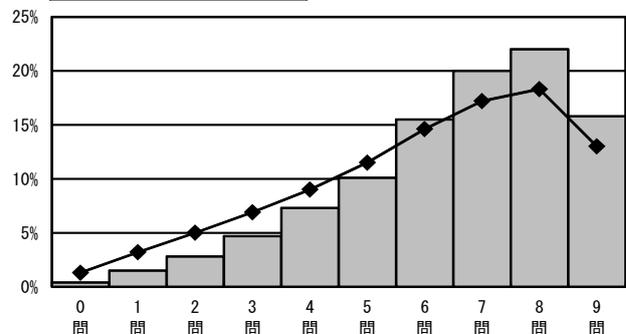


※棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国

〈小学校国語B〉



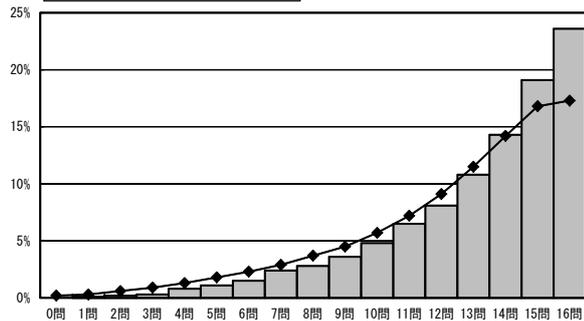
〈中学校国語B〉



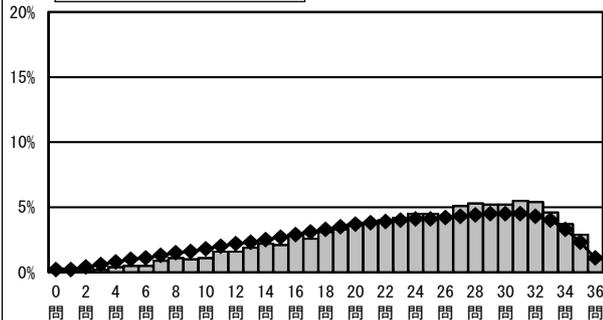
【算数・数学】

※横軸：正答数、縦軸：児童生徒の人数の割合

〈小学校算数A〉

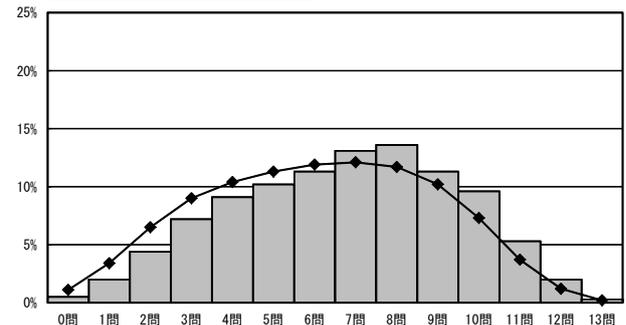


〈中学校数学A〉

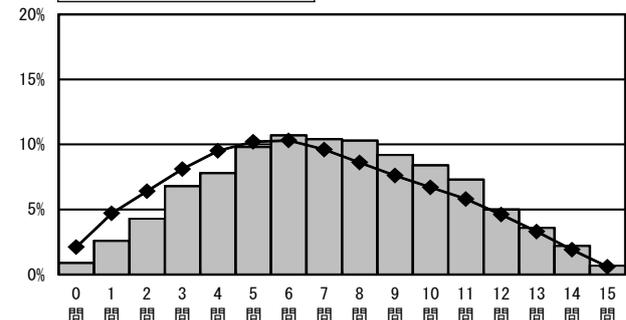


※棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国

〈小学校算数B〉



〈中学校数学B〉



各教科の成果と課題

【国語】

- 平均正答率では、小・中学校とも知識に関する問題（A問題）及び活用に関する問題（B問題）において全国平均をほぼ4ポイント以上上回っている。また、A問題よりもB問題の方が、全国平均を上回る傾向にある。
- グラフや表を基に自分の考えを書いたり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりすることについては、やや改善の傾向がみられた。
- 小学校では、平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字を読んだりすることについて、中学校では、慣用句や、書写に関する事項（字の大きさ、形、配列）についてなど、言語に関する知識・理解に依然として課題がみられる。

●課題となる問題

	問題番号	平均正答率 (%)		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 8 1 2	56.2 49.2	53.2 41.8	ローマ字を書く。 ・りんご ・あさって	平仮名で表記されたものをローマ字で書く。
	B 1 二	56.1	51.1	インタビューの場面での質問の意図として適切なものを選択する。	質問の意図を捉える。
	B 2 三	58.4	58.3	活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する。	活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える。
中 学 校	A 9 三才	53.5	54.0	適切な語句を選択する。 ・白羽の矢が立つ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
	A 9 六	34.5	36.4	題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する。	文字の形や大きさ、配列に注意して書く。
	B 2 三	49.8	49.2	雑誌の記事を読んで疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く。	課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える。

【算数・数学】

- 平均正答率では、小・中学校とも知識に関する問題（A問題）及び活用に関する問題（B問題）において全国平均を4ポイント以上上回っている。
- A問題において、小学校では「量と測定」「図形」の領域で、中学校では「図形」の領域で改善の傾向がみられた。
- B問題において、小学校では「量と測定」の領域で、中学校では「関数」「資料の活用」の領域で、改善の傾向がみられた。
- 小学校では、基準量と比較量の関係を理解することや、示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述すること、図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することに課題がある。
- 中学校では、分数と小数の乗法の計算や、自然数の意味の理解、与えられた式を用いて問題を解決する方法を数学的に説明することに課題がある。

●課題となる問題

	問題番号	平均正答率 (%)		設問の概要	出題の趣旨
		秋田県	全 国		
小 学 校	A 9 (2)	59.6	50.9	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く。	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している。
	B 2 (3)	20.2	15.6	目標タイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く。	示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できる。
	B 5 (2)	25.6	25.4	示された四角形を並べてできる図形を選ぶ。	図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することができる。
中 学 校	A 1 (1)	61.5	66.9	$2 \div 5 \times 0.6$ を計算する。	分数と小数の乗法の計算ができる。
	A 1 (2)	34.9	40.6	-5、0、1、2.5、4の中から自然数を全て選ぶ。	自然数の意味を理解している。
	B 6 (2)	14.4	15.4	文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する。	与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる。

児童生徒質問紙調査の結果

◆ 概要

- 全体として、望ましい生活習慣及び学習習慣が定着していると考えられる。
- 児童生徒が学習の目標（めあて・ねらい）を基に自分たちで課題を立てる、課題の解決に向けて話し合いの仕方を工夫し考えを深めたり広げたりする、授業の最後に学習内容を振り返るなどの活動に、児童生徒が意識して取り組むことができるようにしている。
- 児童生徒に対して、地域や社会への関心が高まるような働きかけがなされている。

本県の結果（％）と全国との差（「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な回答）

	上回っている主な項目	小学校6年生		中学校3年生	
		秋田県	全国比	秋田県	全国比
生活習慣	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	84.9	+ 4.8	81.1	+ 5.9
	◎平成19年度から連続して90%以上を示している主な項目 <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べている。 ・ものを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 ・毎日、同じくらいの時刻に起きている。 				
学習習慣	学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	普段（月～金曜日）		（1時間以上）	
		（30分以上）		（2時間以上）	
業	家で自分で計画を立てて勉強していますか。	80.4	+18.2	67.2	+18.8
	家で学校の授業の復習をしていますか。	91.0	+35.8	87.5	+36.5
	前学年までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。	88.8	+13.1	86.2	+16.9
	前学年までに受けた授業で、児童生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。	87.1	+10.0	86.3	+13.9
その他	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	79.7	+11.4	79.0	+14.2
	前学年までに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。	88.9	+12.8	87.9	+24.8
	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	81.8	+14.8	82.4	+20.2
	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	81.3	+13.9	55.1	+13.2
その他	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださいますか。	93.5	+ 8.7	87.1	+13.0
	自分には、よいところがあると思いますか。	85.3	+ 9.0	80.5	+11.2
	将来の夢や目標をもっていますか。	91.8	+ 6.5	81.4	+10.3
	人が困っているときは、進んで助けていますか。	89.7	+ 5.1	90.0	+ 6.2
その他	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。	80.8	+10.2	77.5	+11.7

学校質問紙調査の結果

◆ 概 要

- 児童生徒が主体的・対話的に学習に取り組むことができるよう、問題解決のプロセスを重視した探究型授業を進めている。
- 国語、算数・数学ともに、日常生活や社会との関連を重視した指導に取り組んでいる。
- 算数・数学において、チームティーチングを行っている割合が、小・中学校ともに全国を大きく上回っている。
- 学力向上に向けたPDCAサイクルを確立し、教職員が共通理解を図りながら学習指導や研修に取り組むなど、学校全体による組織的な取組を進めている。
- 地域や社会に児童生徒の目を向けさせたり、将来について考えさせたりするなど、社会性や自主性の育成につながる取組を行っている割合が高い。

本県の結果（％）と全国との差（「よく行った」「どちらかといえば行った」など肯定的な回答）

上回っている主な項目	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。	85.7	+ 5.6	86.1	+13.5
国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。	94.5	+ 3.6	92.2	+ 6.1
算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。	85.7	+11.6	87.8	+18.6
算数・数学の授業において、前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか。	83.1	+16.2	89.6	+30.1
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。	95.6	+ 7.1	96.5	+10.2
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。	97.5	+ 6.7	91.3	+ 9.8
前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。（国語／算数・数学共通）	97.5	+ 8.7	89.5	+ 7.4
前年度までに、近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。	76.7	+14.2	84.3	+11.8
前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。	93.0	+18.4	97.3	+ 0.2
前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか。	87.7	+ 9.6	87.8	+17.1

全国学力・学習状況調査の活用

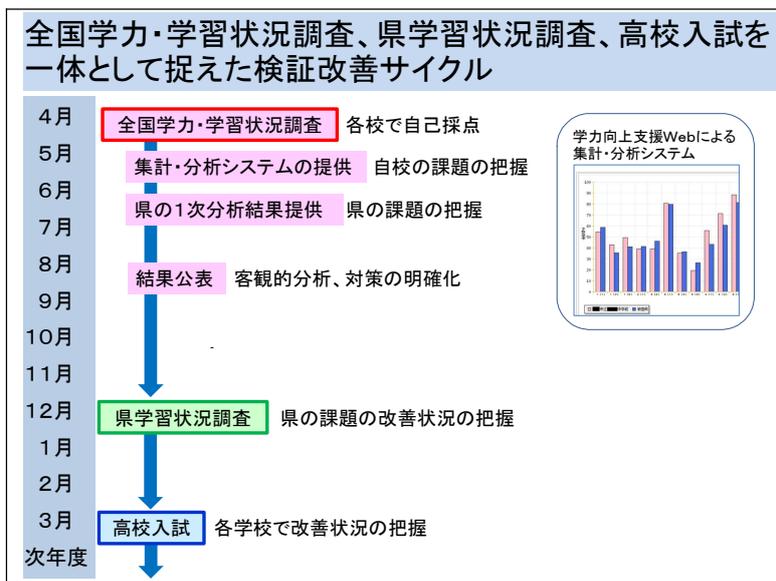
◆ 概要

- 自校の教育指導の改善に向けて、ほとんどの学校が平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で活用している。
- 保護者や地域の人たちに対して、調査結果について公表や説明をしたり、学力向上の取組について働きかけを行ったりしている学校の割合が、全国に比べて高い。
- 自校の教育指導の改善に向けて、ほとんどの学校が、全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析している。

◎学校質問紙調査結果（％）より（「よく行った・行った」と回答した割合）

質問項目	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか。	99.5	+ 0.8	98.2	+ 0.8
平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	98.6	+ 1.6	98.3	+ 3.5
平成27年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む。）	97.5	+ 6.6	91.3	+ 4.4
平成27年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。	95.5	+ 5.3	87.0	+ 3.2
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。	99.5	+ 6.3	97.4	+ 7.4

- 県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルの確立を推進し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていきます。



県教育委員会の取組について

☆学力向上関連事業等

◆これまでの事業等

- 少人数学習推進事業（少人数学級、少人数授業）（H13～）
- 学習状況調査事業（H14～）
- 教育専門監の配置（H17～、義務教育課はH18～）
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条（H20～）
- 秋田わか杉 七つの「はぐくみ」（H27～）
- 小学校まなび・ふれあい充実事業（H21～23）
- 小・中連携いきいきスクール事業（H24、25）
- 小学校外国語活動教員研修事業（H21～）
- 算数・数学学力向上推進事業（H17～22）
- 学力向上推進事業（H23～）
- 読解力向上のための指針の作成（H20～24）
- “「問い」を発する子ども”の育成のための指針の作成（H24）

◆今年度の事業等

- 少人数学習推進事業
 - ・小学校第6学年まで拡充し、小学校第1学年から中学校第3学年の全ての学年で少人数学習が実施可能
- 学力向上推進事業
 - (1)学習状況調査事業
 - (2)あきたの教育力充実事業
 - ①学力向上支援事業
 - ・教科指導CTの活用による指導力向上プロジェクト
 - ・学校訪問指導
 - ・学力向上支援Web活用
 - ・理数才能育成プロジェクト
 - 1) 科学の甲子園ジュニア秋田県大会
 - 2) 理数レベルアップセミナー
 - ②あきたの教育力発信事業
 - ・検証改善委員会による全国学力・学習状況調査の分析・提言
 - ・学力向上フォーラムの開催（平成28年10月22日 横手市）
 - ・新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト（H27～29）
- キャリア教育実践研究事業
 - ・キャリア教育実践研究協議会、キャリア教育推進協議会の実施
 - ・わか杉県政体験（平成28年8月5日）
- あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業
 - ・小・中・高の連携により、英語によるコミュニケーション能力を身に付けた子どもの育成を目指す



秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

- 一 早寝早起き朝ごはん
生活リズムは全ての基本
- 二 元気なあいさつ 明るい返事
規則約束守るわか杉
- 三 読んで話して書いて高める
「問い」を発する思考力
- 四 問題解決 子どもが主体
授業の続きは家庭で学習
- 五 職場体験 インターンシップ
地域で育む子どものキャリア
- 六 学校や地域の話題で語り合い
将来の夢 家族でえがく
- 七 ふるさとを支える自覚と志
みんなのでつくる未来の秋田








※本県の未来を担う子どもたちを「わか杉」と呼んでいます。

秋田わか杉 スキッチ

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”の作成の経緯、基本的な考え方

平成27年度、県教育委員会では“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”を作成いたしました。

全国学力・学習状況調査（文部科学省）において、全国トップレベルを維持している本県の学力やその基盤となる様々な要因については、全国からはもちろんのこと、海外からも注目されることとなりました。

第2期あきたの教育振興に関する基本計画を策定し、「教育立県あきた」の実現を目指す今、児童生徒質問紙調査等から見える児童生徒を主体とした授業づくり、家庭学習の習慣、家庭や地域の教育力等、本県の財産とも言えるオール秋田でつくるすばらしい教育環境を“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”として発信し、「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指したいと考えております。